平成３１年度　全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

（１）各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。

（２）平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。

（３）本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「平成３１年度　全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

１　調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査対象

中学校第３学年　原則として全生徒

３　調査実施日

平成３１年４月１８日（木）

４　調査の内容

<table>
<tr><td>教科に関する調査
（国語、数学、理科）</td><td colspan="2">・中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②　知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。
【国語・数学　各５０分】
【英語「聞くこと」「書くこと」「読むこと」　４５分】
【英語「話すこと」５分】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査</td><td>児童生徒に対する調査</td><td>学校に対する調査</td></tr>
<tr><td>学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
（例）将来の夢はありますか、授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビを見る時間，携帯電話等の使用時間，読書時間，勉強時間の状況など
【２０分程度】</td><td>指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査
（例）学力向上に向けた取組，指導方法の工夫，教育の情報化，教員研修，家庭・地域との連携の状況など</td></tr>
</table>

本校の調査結果の概況

　　は全国平均正答率を上回ったもの

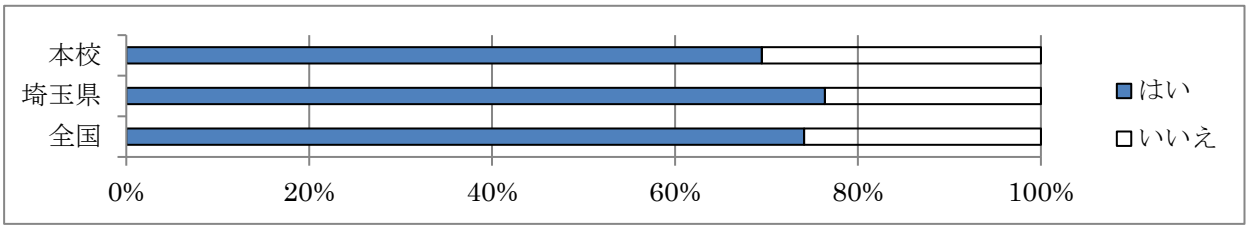
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
話すこと・聞くこと	3	75.8%	69.6%	70.2%
書くこと	2	88.0%	83.0%	82.6%
読むこと	3	73.8%	72.3%	72.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	71.1%	67.0%	67.7%

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
数と式	5	59.5%	62.4%	63.8%
図形	4	73.7%	72.0%	72.4%
関数	3	40.9%	39.3%	40.8%
資料の活用	4	53.6%	56.3%	56.3%

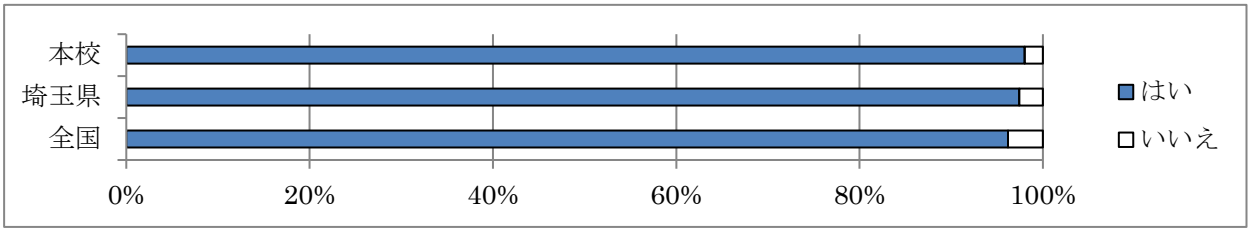
英語				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
聞くこと	7	69.6%	68.9%	67.9%
話すこと（参考値）	5	40.9%		30.8%
読むこと	6	57.3%	56.0%	55.6%
書くこと	8	43.8%	45.9%	45.8%

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

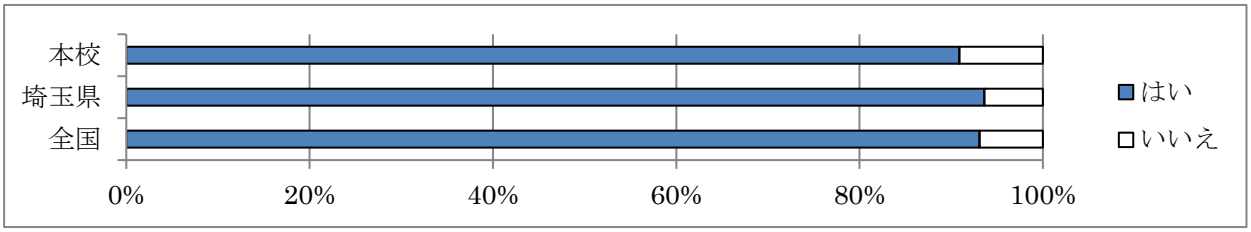
自分には、よいところがあると思いますか。



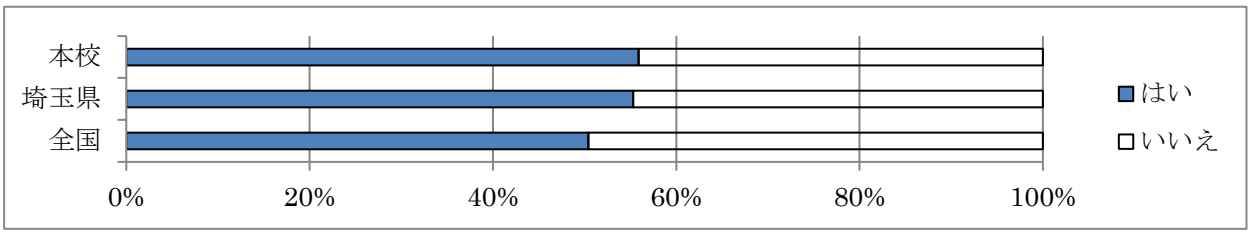
学校のきまり（規則）を守っている。



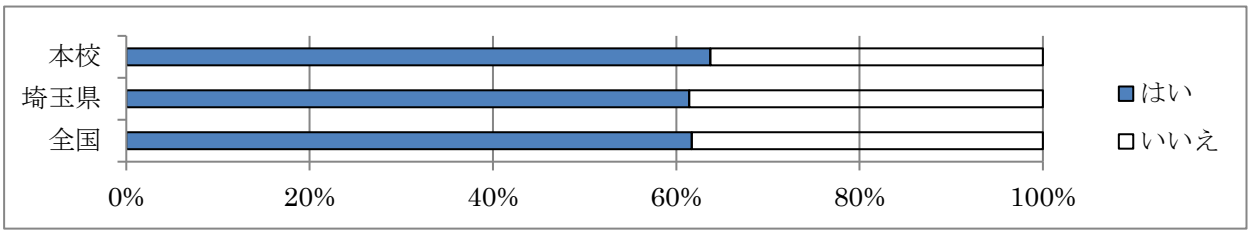
朝食を毎日食べている。



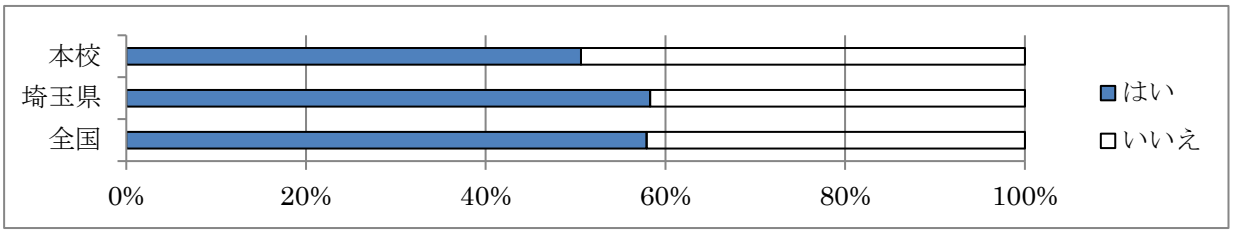
家で、自分で計画を立てて勉強している。



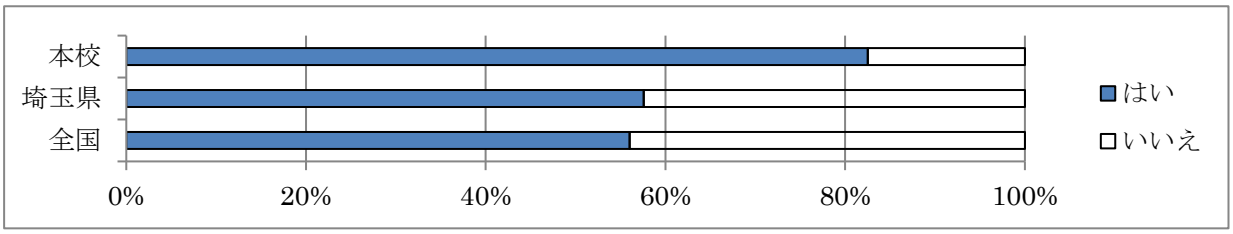
国語の勉強は好きだ。



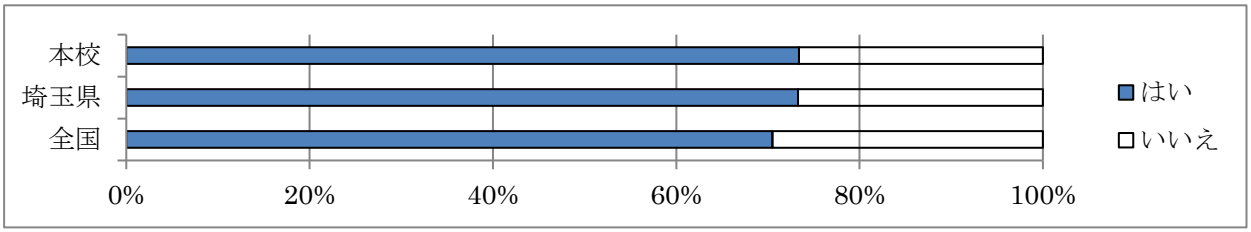
数学の勉強は好きだ。



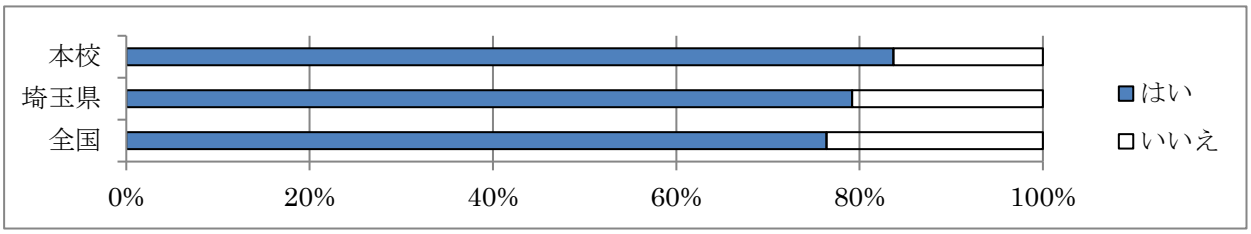
英語の勉強は好きだ。



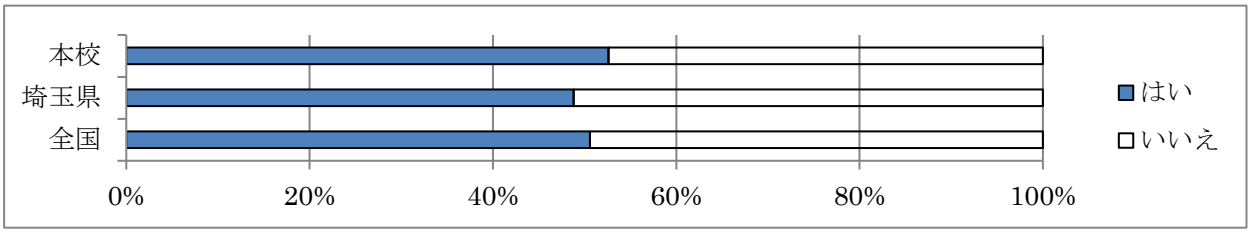
将来の目標や夢を持っている。



家の人と学校での出来事についての話をする。



今住んでいる地域の行事に参加している。



本校の調査結果の分析・考察

＜国語＞

●平均正答率の比較

・本校77%　埼玉県73%　全国 72.8%

●分類別の分析

今年度、本校の全国学力・学習状況調査結果を見ると、正答率の４観点すべてにおいて、県、全国の平均を上回る結果となった。

なかでも、「話すこと・聞くこと」の分野では、全国平均が 70.2%に対し、埼玉県は 69.6%、そして本校は 75.8%と、約 6%近く上回った。この結果から、授業内における発表形式（問題解決型）の授業の増加、グループトークの活性化、音読活動の活発化などが影響していると考えられる。

また「書くこと」の分野では、全国平均が 82.6%、埼玉県が 83.0%、に対し、本校は 88.0%と、こちらでも約 5%以上も上回っている。この結果から考えられる要因として、ワークシートの「空欄なし、８割以上記入」を合言葉に、この２年間取り組んでいったことが考えられる。この合言葉をもとに、授業で使うワークシート内の空欄記入量を意識させ、書かせる授業を展開できたためではないだろうか。また書くことにおける「時間の確保」＝量的向上、「書く内容（表現技法等の習得）の充実」＝質の向上、といったように、「書くこと」そのものに対して、生徒たちが自発的になるような仕掛けを授業内において展開したことで、このような結果になったのではないかと考える。

しかし、「読むこと」の分野に関しては、これまでの２つの観点と異なり、大幅な上回りを見せなかった。これには、本校における「定期テスト」でも同じような結果が得られ、埼玉県が行う「埼玉県学習状況調査」からも、この「読むこと」の力が伸ばしきれていないことがわかっている。したがって、今後の授業展開を「読むこと」の力を伸ばしていくような授業を展開していきたい。例えば、ただ教科書内の読解を行うだけでなく、「読み取った内容を、自らが言語活動を選択し、その工夫から表現する」ような授業を行いたい。またその様な授業を行うことで、次期学習指導要領にもある、「思考力・判断力・表現力」の育成にもつなげていきたい。

●問題別集計結果の分析

問題形式別の結果を見てみると、「選択式」・「短答式」・「記述式」のその全てで平均を上回っているが、注目したいのは、「記述式」である。昨年度まで行われていた「国語B問題」に対応するべく、記述の量を授業内で増やしてきた。その成果が、このような結果につながったのだと考える。また問題別では、「2三」と「3一」の問題が、約7%以上上回り、最も良い結果となった。

●無解答の問題の分析

無回答率においても、多くの分野で良い結果が得られたが、「短歌から一首選び、そこから感じたこと考えたことを書く」という分野において、無回答率が「全国」と「埼玉県」の平均より悪い結果であった。「短歌」は2年生での既習事項であるので、もう一度復習させたい。

＜数学＞

【分析の結果】

領域別にみると、図形、関数については県平均・全国平均を上回っている。数と式、資料の活用については県平均・全国平均を下回っている。観点別にみると、数学的な見方や考え方のみ上回っており、問題形式別にみると、記述式のみ上回っている。思考力や表現力が必要となる問題で県平均・全国平均を上回ることができたのは、授業中に解答だけでなく、途中過程や説明をする場面を設けてきたからかもしれない。また、今回16問出題された。13問以上正答した割合は県・全国を下回っていたが、4問以下正答した割合は県・全国を下回った。そのため、中間層に多くの生徒が位置しているとわかる。県平均・全国平均を大きく下回っている2問に関して以下で詳しく見ていく。

1　正の数・負の数

1　aとbが正の整数のとき、下のアからエまでの計算のうち、計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。正しいものをすべて選びなさい。

ア　a+b
イ　a−b
ウ　a×b
エ　a÷b

答え・・・イ、エ

[出題の趣旨]

四則計算の可能性について考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

・四則計算の結果の特徴を的確に捉えること
・数の集合と四則計算の可能性について理解していること

〈分析〉

・正答率　45.5%＜59.9%（埼玉県）
・無解答率　0.0%＜0.1%（埼玉県）
・正答率が県・全国より15%ほど低い。
・誤答の原因としては以下が考えられる。

①正の整数がわからない
②文字が出てきたことで理解できない
③イでbの方が大きい場合を考えていない
④エで2÷1や4÷2などの正の整数になる場合しか考えていない

5　確率

5　2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求めなさい。ただし、硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

答え・・・$\frac{1}{4}$

[出題の趣旨]

確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

・事象に即して解釈したことを数学的に表現すること
・簡単な場合について、確率を求めること

〈分析〉

・正答率　62.3%＜72.3%（埼玉県）
・無解答率　2.6%＜3.5%（埼玉県）
・正答率が県・全国より10%ほど低い。
・誤答の原因としては以下が考えられる。

①$\frac{1}{3}$・・・起こりうるすべての場合が「2枚とも表」「1枚が表、1枚が裏」「2枚とも裏」の3通りであると考えた

②$\frac{1}{2}$・・・起こりうるすべての場合が2通りであると考えた

＜英語＞

<table>
<tr><td colspan="2">領域別に見ると、書くこと以外は全国平均、県平均を上回る結果となった。特に話すことに関しては本校の正答率は40.9%と大きく平均を上回った。その他、１人称、２人称を用いた英作文や日常的な内容の英文を正確に読み取る問題で高い正答率が見られた。しかし、３人称単数を用いた英作文、音の変化を聞き取る問題は正答率が低く、動詞に関する基礎的・基本的な知識の向上や、語の連結による音変化の知識の向上を図る必要がある。以下に正答率を大きく上回った問題と下回った問題の分析を行う。</td></tr>
<tr><td>・正答率の高い問題

話すこと1　設問⑶

（問題概要）バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答えることができる。

正答・・He comes school by bus.とbusに強勢を置いて発音しているもの。

（出題の趣旨）適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる。

（分析）
本校正答率55.8%＞25.7%（全国平均）
多くの生徒が主語+動詞+byの構造を理解したうえで、話すことができている。
無回答率も2.6%と低い数字となっており、正しい構造で無くとも、質問内容を理解したうえで話すことはできていると考えられる。</td><td>・正答率の低い問題

聞くこと、読むこと、書くこと9　設問⑶③

（問題概要）女性がペットを飼っていないことを説明する英文を書く。

正答・・She doesn’t have any pets.
She has no pets.

（出題の趣旨）与えられた情報に基づいて、一般動詞の３人称単数現在時制に否定文を正確に書くことができる。

（分析）
本校正答率25.3%＞36.4%（全国平均）
誤答の原因として、正しく主語を選択することはできているが、３人称単数現在時制であることを踏まえ、適切に動詞を活用することに課題があると考えられる。また、一般動詞とbe動詞が混在するなどの語法の誤りも課題であると考えられる。</td></tr>
</table>

＜質問紙調査から＞

【質問 17】

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

※要因・今後の対応等

回答結果

そう思う	19.5 %
どちらかといえばそう思う	36.4 %
どちらかといえばそう思わない	30.5 %
そう思わない	13.6 %

〈分析〉

昨年度と比較して全国・県の割合が下がっている傾向のなか、本校の生徒は「思う」の合計が 53.7%から 55.9%と割合を伸ばした。学校全体の取組として、家庭学習の習慣を確立するために行っている 2 ページ学習の取組が定着し、意識の高まりと活用の効果についても理解が高まっていることの表れとみることができる。一方、毎日は出せないこともある生徒もおり、継続することの大切さと提出物の徹底が今後の課題であると考える。生徒一人一人のさらなる学力の向上を目指し、学習指導について家庭のとの連携をさらに進めていく必要性を感じる。

【質問 32】

生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか

※要因・今後の対応等

回答結果

そう思う	42.2 %
どちらかといえばそう思う	36.4 %
どちらかといえばそう思わない	16.2 %
そう思わない	5.2 %

〈分析〉

全国平均に比べ「そう思う」は 13.9%も上回っており、「そう思わない」は 1.5%下回っている。一方で、昨年度「思う」と答えた割合が 92.0%だったのに対して、今年度は 13.4%も下がってしまった。

今年度は学校課題研究として「考え、議論する道徳の実践」の取り組みを行っているだけに、より一層の話し合い活動を充実させるとともに、生徒の意識の向上も果たしたい。また、これからの社会で必要となる力を身につけるためにも、言語活動は各教科で積極的かつ継続的に実践していくことが重要であると考える。

＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞

1　調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2　調査対象

中学校第１・２・３学年　原則として全生徒

3　調査実施日

平成３１年４月１１日（木）

4　調査の内容

（１）教科に関する調査

中学校第１学年　　国語、数学
中学校第２学年及び第３学年　　国語、数学、英語
※　学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（２）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概要

は県平均正答率を上回ったもの

国語	第１学年			第２学年			第３学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答	設問数	本校平均正答	県の平均正答率	設問数	本校平均正答	県の平均正答
話すこと・聞くこと・書くこ	4	48.0%	51.7%	4	55.3%	53.9%	5	53.8%	50.7%
読むこと	9	55.3%	57.1%	9	53.1%	51.3%	9	50.5%	49.1%
伝統的な言語文化と国語の特質に関す	17	66.9%	69.2%	17	63.9%	64.8%	16	57.1%	56.6%

数学（内容は算数）	第１学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	58.6%	59.7%
量と測定	6	51.8%	51.4%
図形	7	61.1%	64.2%
数量関係	6	61.6%	63.3%

数学	第２学年			第３学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	12	51.9%	59.1%	12	57.3%	58.6%
図形	8	56.6%	60.8%	7	56.1%	55.1%
関数	7	56.7%	61.3%	7	61.8%	60.6%
資料の活用	5	53.0%	57.8%	6	58.2%	58.3%

英語 教科の領域等	第２学年			第３学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答	県の平均正答率
聞くこと	10	63.2%	62.1%	10	66.5%	61.7%
話すこと	–	—	—	–	—	—
読むこと	20	56.9%	54.6%	22	57.7%	54.5%
書くこと	5	55.6%	51.8%	6	52.9%	50.9%

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※　達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、　　は８０％以上　　（%）

内容	項目	第１学年	第２学年	第３学年
○けじめある生活ができる	1　時刻を守る			
	①　登校時刻	97.5 98.1	98.6 97.5	98.1 96.6
	②　授業開始時刻	98.1 98.2	97.3 97.5	98.7 97.2
	2　身の回りの整理整頓をする			
	③　靴そろえ	92.5 92.3	91.9 92.4	96.8 92.2
	④　整理整頓	85.1 85.3	83.1 86.1	90.3 86.3
○礼儀正しく人と接することができる	3　進んであいさつや返事をする			
	⑤　あいさつ	89.4 84.0	87.8 84.9	96.1 84.0
	⑥　返事	93.2 90.5	91.9 88.7	97.4 88.6
	4　ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦　ていねいな言葉づかい	92.5 93.8	91.2 90.7	97.4 91.8
	⑧　やさしい言葉づかい	92.5 91.4	89.9 86.3	94.2 87.1
○約束やきまりを守ることができる	5　学習のきまりを守る			
	⑨　学習準備	93.2 92.1	92.6 89.9	96.1 89.6
	⑩　話を聞き発表する	76.4 76.6	77.0 71.9	75.5 71.8
	6　生活のきまりを守る			
	⑪　集団の場での態度	96.3 94.9	93.2 93.5	100.0 94.7
	⑫　掃除・美化活動	83.9 86.5	90.5 85.6	91.0 84.5

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆１　個別指導の徹底
（１）個別指導の時間を確保し、チームティーチング等での指導。
（２）授業の約束や宿題をきちんとやる等、授業のルールを守る指導。

☆２　言語活動の充実
（１）全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間の確保。
☆３　学習に対する態度の育成
（１）日常生活や授業における適切な言葉遣いの指導。
（２）教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価の機会を増やす。

授業以外の取組
■１　家庭学習の習慣化
（１）2ページ学習帳の活用によるは家庭学習の時間の確保。
（２）家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高める指導。
■２　生徒一人一人に合った学力向上に向けての取組
（１）わからないところをそのままにしないで学習しようとする意欲は、県平均より低い。授業等における個別指導の一層の充実。
（２）補習やテスト前に質問日を設定し、わかる喜びを感得させる個に応じた指導。

☆…成果を上げたと考えられる取組
■…課題を解決するための取組

令和元年度

学力向上全体計画

桶川市立桶川西中学校

・日本国憲法　関係法規　学習指導要領
・埼玉県小中学校教育課程編成要領
・埼玉県教育行政重点施策
・指導の重点・努力点等

学　校　教　育　目　標
志を持ち
自ら学ぶ
健康でたくましい生徒

・地域の実態　・生徒の実態
・保護者の願い　・教師の願い
・期待される生徒像
・学力向上に係る「学校課題」

学校経営方針
「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」
学ぶ楽しさが味わえる「分かる授業」が展開され、生徒が意欲的に学習する学校

目指す学校像
学ぶ楽しさが味わえる、「わかる授業」が展開され生徒が意欲的に学習する学校

目指す教師像
意欲的に研修に努め、専門職としての力量を向上させて指導

目指す生徒像
自ら学習に取り組み、「学力」をしっかりと身につけた生徒

本校の課題
・学習意欲の喚起と学習規律の向上
・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
・既習内容を活用した思考力・表現力の向上

各教科の指導の重点

〇学習の動機付けの強化
〇必然的な知識・技能の活用を伴う教材、単元開発
〇言語活動の充実を図るための学習過程、学習形態の工夫

【国語】
・学年に応じた漢字指導、「書く」場を意図的につくり言語活動を充実させる。

【数学】
・生徒による問題解説や話し合い活動の時間を設け、生徒主体の授業を行う 。

【社会】
・事象について考察,判断し、その成果を自分の言葉で表現する学習を行う。

【理科】
・実験,観察→結果→考察の過程を通して基本の定着を図る。

【英語】
・ペアやグループなどの学習形態を工夫し、自己表現の場を多く設定する。

【音楽】
・聴く力、感じ取る力の育成。表現、合唱づくり。

【美術】
・制作カードの活用、発想トレーニングテスト、体験活動を重視する。

【保健体育】
・課題を指摘しあえるようペア学習を取り入れる。

【技術・家庭】
・生活の自立に必要な知識技能の習得、実践的な活動を重視する。

PDCA

P
①課題を解決するための計画
〇学習状況調査等を元にした指導計画・指導方法の改善案の立案
・全職員に共通理解を図る。
・保護者、地域住民への広報活動（懇談会、学校だより）
・課題解決プランの作成

D
②計画に基づく指導の実践
〇課題解決プランに基づく全職員共通行動による指導の実践
・各教科等の指導の実践
・校内研修の充実と実践
・関係諸機関との連携
・地域、保護者との連携

C
③実態の把握
〇多方面からの学校・職員・　生徒の実態把握
・学力調査(国・県・校内実力テスト)等による生徒の実態の把握
・学校評価による本校教育活動の成果と課題の把握

A
④課題の絞り込み
〇新たな課題の確認と分析
・次年度の教育計画、全体計画、年間指導計画への位置づけ
・課題解決プランの見直しと修正
・校内分掌体制の見直し

改善状況を把握する指標の設定（R1全国学力・学習状況調査による）
〇学習評価（正答率）の設定（全国平均を基準とする）
　国語正答率　全国平均より4.2ポイント上
　数学正答率　全国平均より1.8ポイント下
　英語正答率　全国平均と同ポイント
〇質問紙調査における回答率の設定 「あてはまる」「ややあてはまる」
　「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」　約80%
　「道徳の授業で、自分の考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んだ」　約87%
　「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」　約56%

【特別の教科　道徳】
・生徒の心に響く、考え議論する道徳の授業実践を図る。
・学校の教育活動全体を通して、道徳的実践力の育成を図る。

各領域等の目標及び内容

【特別活動】
・望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係を築き、集団の一員としての役割と自覚をもって行動できる生徒を育成する。

【総合的な学習の時間】
・自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を育てる。
・学び方やものの考え方を身につけ、探求した内容を発信していく自己表現能力を育てる。

【生徒指導】
・学習規律や生活規律について共通理解を図り、職員の共通行動を徹底する。
・生徒指導体制の見直し、改善を図る。
・フットワーク・ネットワーク・チームワークで生徒指導にあたる。

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
改善の観点	指導内容・指導方針の工夫	教育課程編成上の工夫	学習評価活動の工夫	家庭・地域社会との連携の工夫
取組の 基本方針	基礎・基本の着実な定着とそれを活用する場を設定すると共に、学習形態の工夫をする。	授業時数を確保し、生徒の実態を把握した、指導計画、教材の準備等を計画的に行う。	生徒のよい点や進捗状況の積極的評価を指導に生かす。	基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせる。 言語活動を充実させる。
課題解決のための 具体的取組	〇学力向上に向けた計画的な取組 ・TT指導、個に応じた指導 ・定期テストへの取組 （補習、質問日の設定）	〇各教科、各学年間の系統的、発展的指導の工夫 ・単元配当時間の工夫 ・思考力・判断力・表現力を高めるための授業展開の工夫改善 ・情報活用能力の育成と情報モラル指導	〇年間指導計画に基づいた評価計画の作成 ・学習目標の明確化とシラバスの作成 ・生徒の自己評価や相互評価を生かした評価能力の向上	〇家庭への啓発と評価の実施 ・朝の登校指導、あいさつ運動 ・親子除草、西中サポーターズ ・祭礼指導（祇園、日出谷、川田谷） ・クリーン活動ボランティア
関連する行事等	・朝読書 ・教育支援担当者訪問 ・学校課題研(道徳)	・校内研修 ・学校課題研修推進委員会 ・教育課程編成委員会	・通知表 ・テスト個票	・学校、学年、学級だより ・授業参観、保護者会、公開日 ・PTA総会、バザー

保護者・地域の皆様へ

本年度の埼玉県学力学習状況調査の質問紙調査において、本校の生徒の達成率と県の達成率を比較すると、進んであいさつや返事をする項目で、全学年が県の達成率を超えるなど「礼儀正しく人と接することができる」においてとても良い傾向が見られました。全体的に、学年が上がるにつれて県の達成率を上回る傾向がみられ、本校において学校生活の中で規律ある態度を身につけながら成長している様子がつかみ取れます。

本校では、昨年度から3か年計画による学校課題研究の取組として「豊かな心を育む道徳教育の充実」をテーマに継続して研究を進めております。この中には「考え、議論する道徳の実践」が掲げられており、上記に関わるような、人との接し方、規律ある態度などの育成にも大きく関わる学習活動であるとともに、各教科の学習における、基礎的・基本的な知識が定着し、思考力・判断力・表現力が身について学習への意欲や学力の向上にもつながることが期待されています。

今後も生徒一人一人が向上心を持ち、規律ある学校生活を送れるよう、また、学習習慣が確立できるような体制を継続できるよう、学校はもちろん家庭・地域と連携しながら、生徒のよりよい成長を促していきます。よろしくお願いいたします。